

書 評

三瀧忠道 著

《総合診療ブックス》はじめての漢方診療 十五話 [DVD 付]

山口 哲生 (JR 東京総合病院・呼吸器内科部長)

親友の三瀧忠道先生が素晴らしい漢方の解説書を書いてくれた。

実に読みやすい本だ。漢方の解説書というと、陰陽虚実の証の話からはじまって、西洋医学だけをやっている者にはなかなかとつきづらいものや、症状別・病名別に使える漢方薬を羅列して説明してあるものが多かったが、この本には漢方の考え方と具体的な使い方、診察のしかたが実にわかりやすく書かれてある。読みはじめると、まず入り口としての簡単な解説がある。それからすぐに「これが漢方診療の実際だ」と、どのような患者にどのように使うのかが著効例を挙げながら具体的に書かれてある。いかにも患者さんを大切に三瀧先生らしい切り口だ。

それから漢方の考え方の話、診察のしかたと進んでくるが、べったりとすみからすみまで解説しようというよりは、白い紙に墨汁を落とすように、大切なところに焦点をあてながら、じわじわと話を広げていく。白い頭で読み進むうちに、いつしか墨汁の広がった部分の面積が多くなり、まとまった知識となってくるのを感じることができる。そんな本である。陰陽虚実の考え方はくり返し書いてあり、そのイメージがつかめたら、あとは本のどこからでも墨汁の一点として読み出すことができる。だから読み

飽きない。重要な気血水の解説がうしろにまわっていてもそこだけ読むことができるし、大切な解説は繰り返しているのもよい。

DVD もよい出来だ。待望の「目で見える漢方診療 DVD」といえる。

通読して三瀧先生に感じるものは、1つは「本物の漢方の実践」である。「冷え性で力がない」という患者に、「とりあえず補中益気湯か、人参湯か、真武湯でも」という漢方ではない。本書で記されている「陰証期の治療」の四逆湯類の解説には迫力がある。ここまで切り込まないと治せないぞという厳しさがある。これは本物だと感じさせる。そして2つ目は「優しさ」である。1人ひとりの患者さんを大切にしている様子が伝わってくる。DVD で子供の腹診をしている場面などはほのぼのとした彼らしい優しさがにじみ出ている。陰陽の解説で「藤平健先生はこのように言われていた」と言い続けている律儀さも彼らしい。

少しほめすぎのきらいもあるが、本書が、特にこれから漢方を学ぼうとする者にとって、最適の指南書であることは間違いない。

(A5判 300頁 定価5,250円(本体5,000円+税5%))  
2005年 医学書院 刊